

## Part 19, Vols 71-74: Art History, 3rd Series

定価 本体78,000円+税・全4巻・ISBN 978-4-86340-189-1・菊判

## アメリカ映画：初期の「映画論」

映画のための、また映画についての先駆的な著作6冊を集成。

映画製作の方向性や映画評論のあり方を打ち立てる上で貢献があった、映画発展史を考える上での重要著作。

## Contents

Volume 71: Epes Winthrop Sargent *Technique of the Photoplay* (1912; 3rd ed., 1916)

ISBN 978-4-86340-190-7・408 pp.

定価 本体 18,000円+税

全く新たに登場した映像表現(=映画のごく初期の段階)に付随して必要とされた新しい文字表現、いわゆるフォトプレイの書き方を扱った著作で、手引書として一番よく使われていたもの。

映画が、発生期の小品から複数のフィルムリールを用いるより長い作品の製作へと移っていく中、きちんとした作品に仕上げるための設計図ともいうべき「脚本」が多く求められるようになる。1910年代には多くの台本作成のための手引きが出回る中、もっとも使われたのが本書。著者 Sargent は、1890年代からニューヨークの新聞や雑誌の世界でヴォードヴィルの批評を執筆してきた人物。1905年の *Variety* 誌設立にも協力、この頃からまだ立ち上がったばかりの映画産業に関わりはじめ、何百もの映画台本を執筆、編集するなどしました。また *Moving Picture World* 誌のコラム記事にも映画台本作成の方法を書いたり、*Variety* 誌に映画評論を寄稿するなどもしていた。まさに脚本の世界での中心人物。

Introduction: the manuscript department; the studio; locations; the director; manufacture and distribution • Plotting: what constitutes a plot; motives; accuracy; plausibility; struggle and suspense; crisis and climax; anti-climax; character; etc. • Photoplay Form: titles; the synopsis; the cast of characters; scenes and scene plots; leaders and cut-ins; the close-up; cut-backs and flashes; trick and light effects; etc. • Writing in Form: the plot of action; continuity; adaptation and reconstruction, etc. • Classification of Photoplays: drama; historical and costume plays; problem plays; purpose and propaganda plays; melodrama; comedy; farce and slapstick; multiple reels; features; series and serials; talking pictures, etc. • General Information: selling the script; editors and others; censorship of films; copyright and the copyrighted story; schools and agencies; prize schemes, etc. • Glossary

Volume 72: Vachel Lindsay *The Art of the Moving Picture* (1915; 2nd ed., 1922)

ISBN 978-4-86340-191-4・334 pp.

定価 本体 16,000円+税

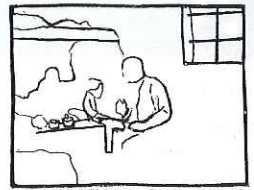
著名な詩人 Vachel Lindsay の著作で、アメリカで初めての映画芸術論として考えられているもの。初版は 1915 年、コロンビア大学で映画専攻の公開講座が開設された年。1922 年改訂。

著者は映画という新たな形態の娯楽についてはじめてきちんと評価したアメリカ知識人のひとり。革新的な「視覚表現」として検討して見せ、また映画のもつ、芸術としてだけでなく、プロパガンダや文化形態の媒体としての可能性を認めた。本書は映画によるアメリカの時代の到来を予言して結ばれている。

The General Photoplay Situation in America, January 1, 1922 • The Point of View • The Photoplay of Action • The Intimate Photoplay • The Motion Picture of Fairy Splendor • The Picture of Crowd Splendor • The Picture of Patriotic Splendor • The Picture of Religious Splendor • Sculpture-in-Motion • Painting-in-Motion • Furniture, Trappings, and Inventions in Motion • Architecture-in-Motion • Thirty Differences between the Photoplays and the Stage • Hieroglyphics • The Orchestra, Conversation, and the Censorship • The Substitute for the Saloon • California and America • Progress and Endowment • Architects as Crusaders • On Coming Forth by Day • The Prophet-Wizard • The Acceptable Year of the Lord



From *The Year of the Future*. An interesting example of atmosphere and the formalizing of dramatic gesture with pictorial patterns. The composition, however, is slightly marred by overemphasis on the window. See page 51 and 52.



A study of the "1915" show above, illustrating a simple method of analyzing pictorial composition. See page 42.

Volume 73: Victor Oscar Freeburg *The Art of Photoplay Making* (1918) & *Pictorial Beauty on the Screen* (1923)

ISBN 978-4-86340-192-1・506 pp., 28 pl.

定価 本体 22,000円+税

著者 Freeburg はエリザベス朝演劇研究者で、コロンビア大学の映画専攻公開講座の最初の講師。1918年の著作は主に、劇構造、人物造形と筋立てについて扱われ、「舞台演劇の観点から映画を判断」してはならないと力説している。この本を補う形で、映像の構図について論じたのが 1923年の著作である。まったく新しい独自の基準に照らして検討されるべき新たな視覚芸術の形態であることを論証している。

(*The Art of Photoplay Making*;) The New Art • The Psychology of the Cinema Audience • Pictorial Composition in Static Forms • Pictorial Composition in Fluent Forms • Camera Magic • The Appeal to the Imagination • Symbolism and Allegory • Dramatizing a Natural Setting • Words on the Screen • Screen Comedy • The Delineation of Character • Dramatic Appeal • The Construction of a Plot • Commercial Needs • Index  
(*Pictorial Beauty on the Screen*;) Pictorial Art in the Movies • The Practical Value of Pictorial Composition • Eye Tests for Beauty • Pictorial Force in Fixed Patterns • Rhythm and Repose in Fixed Design • Motions in a Picture • Pictorial Motions at Work • Pictorial Motions at Play • Pictorial Motions at Rest • Mastery in the Movies • The Mysterious Emotions of Art

Volume 74: Frances Taylor Patterson *Cinema Craftsmanship: A Book for Photoplaywrights* (1920; 2nd ed., 1921) & *Scenario and Screen* (1928)

ISBN 978-4-86340-193-8・534 pp., 20 pl.

定価 本体 22,000円+税

著者 Patterson は、Vol. 73 の著者が 1917 年に兵役に就いた時の講座の後任。最初の著作は、シナリオについてのもので、講座の教科書として使われた。後の著作は、今では希少なもので、製作過程全体の中でのシナリオの役割に特化している。この 2 冊の本は、公開講座ともども 20 年に渡りシナリオライター志望者と映画鑑賞者を教育した。

(*Cinema Craftsmanship*;) The Art and the Science • The Plot • The Characters • The Setting • Adaptation • Scenario Technique • Writing a Synopsis for the Photoplay Market • Cinema Comedy • The Critical Angle • The Photoplay Market • "Witchcraft" • Index  
(*Scenario and Screen*;) The Author • The Story • The Continuity • The Titles • The Camera • The Director • The Scenario Editor • The Producer • The Press • The Outlook • Diction on the "Lot" • Index



# アメリカ映画学の黎明期

—アメリカ映画批評史・教育史を展望するための貴重な資料集

中垣 恒太郎 ●大東文化大学教授



初期アメリカ映画にまつわる本復刻シリーズ(Part 19)は『アメリカ映画：初期の「映画論」(全4巻)』として、映画の誕生から1927年のトーキー映画登場の転換点に至るまでにいかに映画が芸術として評価されていったのかを探るための基礎文献が収められている。

Victor Oscar Freeburg (1882-1953)は1915年から17年までコロンビア大学で教鞭をとり、米国の大学での最初に開設された映画学講座(Photoplay Composition)を開講していた。新しい芸術としての映画表現の可能性を逸早く評価して

おり、Freeburgによる著書*The Art of Photoplay Making* (1918)および*Pictorial Beauty on the Screen* (1923)は観客の心理分析などに焦点を当て学術性の高いものとして評価されている(【Vol. 73】)。後の観客(受容)論などと比較するのも有効だろう。このFreeburgの講座を引き継いだのが女性映画研究者であり、脚本の実作にも携わっていたFrances Taylor Pattersonである。Freeburgが講座担当を外れたのは徴兵による理由であり、映画制作を含む同時代の背景として第一次世界大戦の影響も見過ごせない。Pattersonはこのコロンビア大学での講義を踏まえて2冊の著書を刊行しており、それが本シリーズに収められている*Cinema Craftsmanship: A Book for Photoplaywrights* (1920, 2nd edition, 1921)および*Scenario and Screen* (1928)である(【Vol. 74】)。パラマウント映画は彼女が教育で使用するための映像制作をサポートしており、映画業界との連携もなされていた。また、Pattersonは大学の正規授業に加え、一般開放向け講座(エクステンション・プログラム)も担当しており、一般の受講者に対しては良き観客に育てることに腐心し、幅広い需要に応えていた。

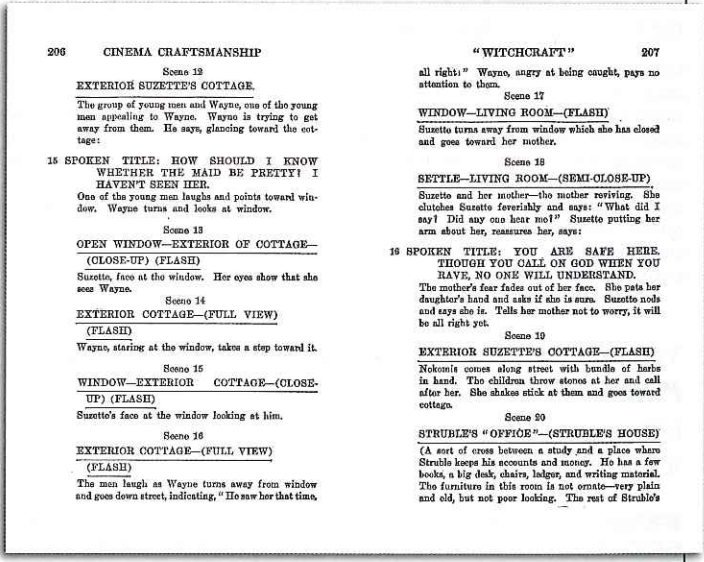
FreeburgからPattersonへと継承されたコロンビア大学の映画学講座では、物語にまつわる方法論(ストーリー分析)のみならず、視覚面での分析にも留意している点に特徴がある。さらにPattersonは、エイゼンシュテインの『戦艦ポチョムキン』(1924)やドイツ表現主義の代表作となる『カリガリ博士』(1921)など同時代の新しい芸術表現としてのモダニズムの手法に対しても積極的に評価する姿勢を示した。

初期の映画学を展望する上で重要な人物として、さらに詩人Vachel Lindsay (1879-1931)を挙げることができる(【Vol. 72】)。Lindsayの詩人としての代表作に“Congo” (1913)という詩があり、1885年から1908年にかけて、ベルギー王であるレオポルド2世によって私領地とされていた、コンゴ自由国(現・コンゴ民主共和国)における植民地支配の問題を背景としている。アフリカの原始主義的魅力を全面に押し出した詩はやがて歌となり、マイノリティの文化伝統を称揚するLindsayのスタイルはWalt Whitmanの系譜に連なる「大衆的な吟遊詩人」、詩と歌を組み合わせる現代詩の先駆者としての位置づけられている。こうしたパフォーマンス芸術や大衆文化の先駆者としてのLindsayがどのように新しい表現芸術である映画を捉えていたのかが読みどころとなるだろう。まだ大衆娯楽の域を出ていなかった映画の黎明期に映画の芸術性を高く評価していた点、また、第一次世界大戦の影響が色濃く、プロパガンダとしての映画の機能について触れている点などをLindsay独自の視点として見る

び上がってくる。Freeburgのコロンビア大学での講座ではLindsayの著作*The Art of the Moving Picture* (1915, 2nd edition, 1922)をテキストの一部として扱っており、Lindsay自身もゲスト講師としてしばしば招かれていたらしく両者には共通点も多いが、大学という制度における映画学講座の担当者としてのFreeburgの学術的アプローチに比して、Lindsayは表現者としての立場から映画という表現芸術を捉えている点に両者の対照性を見ることができる。また、両者のサイレント映画観の違いとして、サイレント映画にはしばしば状況を説明するための文字表現が用いられるが、Lindsayは極力、文字表現に頼らない作品を理想としていたのに比してFreeburgの方がより柔軟に映画の可能性を捉えていた。

あるいは、Epes Winthrop Sargent (1872-1938)による、*Technique of the Photoplay* (1912, 3rd edition, 1916)はヴォードヴィルを専門としていた批評家であり、雑誌などを初出とする評論の集積である(【Vol. 71】)。大衆娯楽の枠組から映画がどのように批評家から捉えられていたのかを探ることができる。

このようにそれぞれの映画論のアプローチにおける細部の対照性を分析することにより、映画の鑑賞方法がまだ未整備であった時代にどのように表現芸術としての映画が捉えられていたのかを探ることができる。中でも、D. W. Griffithに代表される長編芸術映画の登場、第一次世界大戦期の映画のあり方、モダニズムをはじめとする実験的手法の隆盛、サイレント映画からトーキーへの移行、産業として急成長していく映画業界の様子なども含め、急激に変貌を遂げつつあった映画の黎明期における同時代の反応をたどる貴重な証言集となっている。また、大学という制度の中での映画研究の黎明期を、その後の映画学の発展史を参照しながら捉え直すことも有益であろう。大学、表現者、批評家など様々な観点から新しい表現芸術である映画がどのように見えていたのかを探る上で本復刻シリーズはとてもよく目配りされたアンソロジーであり、アメリカ映画批評史・教育史を展望するために不可欠な基礎資料となっている。



【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】